

協定校主催（大学とりまとめ）ショートプログラム報告書

| | |
|------------------------|--|
| プログラム名 | インド工科大学ボンベイ校（IITB）サマースクール |
| プログラム詳細 | インド工科大学ボンベイ校（IITB）サマースクール 2025 参加者募集 - 京都大学海外留学情報ポータルサイト |
| 留学先大学 | インド工科大学ボンベイ校（IITB） |
| 留学先国・地域 | インド・ボンベイ |
| 使用言語 | 英語 |
| プログラムの内容 （参加者の回答より） | 語学学習、専門分野の学習、講義、エクサカーション、学生交流、文化体験 |

参加者への質問事項：①参加のきっかけ、②感想、③費用、④学習効果、⑤満足度、⑥難易度

（経済学部・3回生）

①インドに行きたかったため。

②大満足の内容でした。講義目的で行きましたが、振り返ってみると、講義後に他の参加者と遊びに行ったことが一番思い出に残っています。まさに世界各国から学生が集まってきており、普段接点のない学生たちと仲を深めることができ、インドの非日常的で刺激的な環境も相まって、非常に貴重な体験をすることができました。

③10万円 ④とても効果を感じられる ⑤とても有意義だった ⑥ちょうどよかった

（情報学研究科・修士1回生）

①英語の授業を受けてみたかったから、インドに行きたかったから

②二週間にわたって参加し、1週目はデリバティブの価格付けについての講義、2週目はネットワークセキュリティについての講義を受けた。1週目は年配の教授が講義を担当していて、内容は学部生向けの易しいものであったが、教え方が非常に丁寧でわかりやすかった。2週目のネットワークセキュリティの授業はやや雑で授業が予定より早く終わることも多々あった。生活環境としては至れり尽せりで、非常に綺麗なホテルを用意していただいた上に3食付きで、授業の合間の休憩中にはコーヒーやチャイが配布された。現地の様子としてはムンバイ中心部は空気汚染が酷かったが、大学は中心部からは離れており空気は比較的綺麗だったと思われる。交通渋滞が酷く、バスや電車などの公共交通機関も日本と比べると利用がしづらかった。

③10万円 ④効果を感じられる ⑤とても有意義だった ⑥やや易しかった

（工学研究科・修士1回生）

①KULASIS

②まずインドという、土地そのものに憧れを抱いていたため、現地の文化や雰囲気味わうことが出来て良かったです。インド工科大学では制御工学・メカトロニクスを専攻しましたが、独特の発音の英語で受ける授業は非常にハードでした。

③15万円 ④効果を感じられる ⑤有意義だった ⑥難しかった

協定校主催（大学とりまとめ）ショートプログラム報告書

（理学部・2回生）

- ①海外に一度でも行ってみたいかったから、滞在費が安く、安全に生活できるから、海外の大学生と知り合えるから
- ②プログラムは2週間にわたって行われた。一週目と二週目でそれぞれ異なる内容の講義を選択でき、私は前者で化学を、後者でデータサイエンスの授業をとった。前者では高校科学の内容を前提に今流行りのフロー化学や電界合成などを学んだ後で何度か研究室に見学に行った。後者ではパソコンを用いて、インドの気候をプログラミングなどでグラフ化して研究する経験をした。他の参加者は世界の各国から来ていたが、やはり南アジアの人が多かった。皆同じゲストハウスで生活しているため登下校の時などは賑やかに交流していた。せっかくインドに来たのに観光しないのではもったいないため、放課後にこぞって集まって買い物や観光のための遠出をしたり、適当にレストランに寄って話したりした。現地は緯度が低く、また雨季なのもあって非常に高温多湿で快適ではなかったが京都よりは涼しかった。道路や公共機関の中にもゴミや砂汚れが目立ち、京都にある清潔感とは程遠かった。授業の合間の休憩時間にはコーヒブレイクができ、この間にいろんな人と話したりした。また、一週目と二週目の間の土曜日に大学主催のムンバイの観光ツアーがあった。スケジュールはタイトだったが色々なところを回れた。現地の人英語を話すことは多いがいわゆるインド英語で聞き取れるようになるまで1週間くらいかかった。また、他の参加者たちもそれぞれの国独特の訛りがあって、ただ英語の学習におけるリスニングやスピーキングができるだけでは交流できないのだと痛感した。また、参加者には英語に堪能な人が多かった。
- ③13万円 ④効果を感じられる ⑤とても有意義だった ⑥やや難しかった